

福岡県公安委員会活動状況

<定例会の主な議題及び要旨>

平成30年2月15日（木）

【報告事項】

1 平成30年度警察費予算案の概要について

（総務部）

警察本部から「平成30年度警察費予算案は、1,278億5,900万円余、前年度対比37億7,200万円余の増となっている。重点施策事業は、保護対策強化のための資機材の整備、暴力団離脱希望者への離脱就労支援金の整備等の計12事業が新規予算となる。その他の主な事業は、取調べの録音・録画資機材の整備、行橋警察署の新庁舎建設等となっている。」旨の報告があった。

公安委員から「物件費が14億円増加した理由は何があるのか。」旨の発言があり、警察本部から「物件費増の理由としては、新庁舎の建設費等が大きな額になっているが、重点施策による増分も含まれている。」旨の説明があった。

公安委員から「以前、ニセ電話詐欺対策として被害防止機能付電話等の普及を進めていたが、予算化して被害が多い地域等に配布できればと思う。」旨の発言があり、警察本部から「今回の予算要求には含まれていないが、関係機関と連携しながら機器の普及を促進している。」旨の説明があった。

公安委員から「コールセンターによるニセ電話詐欺被害の抑止について、予算措置のポイントはどのようなものか。」旨の発言があり、警察本部から「過去に流通した名簿に登載された約8万人を対象に注意喚起をしていくこととしている。」旨の説明があった。

公安委員から「暴力団離脱希望者への支援金の支出は、どこが担当するのか。申出があれば支出するのか。」旨の発言があり、警察本部から「暴力団対策部が担当する。支出に当たっては、居住先が無い場合などの一定の基準を設けている。」旨の説明があった。

2 平成29年度警察官採用試験実施結果及び平成30年度同実施計画について

（警務部）

警察本部から「平成29年度の実施結果については、採用予定数331人のところ、受験者数3,447人で、競争倍率は8.3倍であった。平成30年度は388人を採用予定である。また、警察官Cの受験資格を見直し、年齢要件のみに変更している。」旨の報告があった。

公安委員から「社会そのものが多様化している中で、警察も多様な事案を扱うことが多くなることが予想される。そのような中、警察官Cのような専門領域での採用も世の中の環境変化に合わせて考えていくことが重要だと思う。また、専門的な能力を持つ障がい者の方を受け入れて活用していくことも必要だと思う。」旨の発言があり、警務部長から「警察官Cは、経済、語学、情報工学の採用を行っているが、御指摘のとおり、今後の治安環境の変化により必要な種別を検討していくことはあり得ると考えている。障がい者の方については、一般職員として採用している。」旨の説明があった。

3 北九州マラソン2018の概要について

（交通部）

警察本部から「2月18日、北九州市において「北九州マラソン2018」が開催される。参加人数は約1万4,000人であり、県警察では、自主整理員と共に所要の体制で警備に当たる。」旨の報告があった。

公安委員から「予算案のなかに、サイクルポリスの資機材の整備が含まれているが、このような大会をサイクルポリスの広報に活用できればと思う。」旨の発言があり、警察本部から「サイクルポリスについては、先進県を参考として来年度予算として要求しているもので、今回のマラソンには間に合わないが、予算が成立し、導入される際には、広報についても実施する方向で関係部署と検討していきたい。」旨の説明があった。

公安委員から「このようなマラソン大会の警備には、県警察においても相当の経費を要すると思う。今後、このようなマラソン大会が増えたとすれば、主催者である自治体等に対し、費用負担の申し入れを行うことも検討してはどうかと思う。」旨の発言があり、警察本部から「県警察が直接、参加費用の分配を受けることはないが、警備員の配置やカメラの設置等の経費が発生するものは、主催者に対して費用負担を要望している。」旨の説明があった。

4 放置違反金関係事務における住民基本台帳ネットワークシステムの利用について

(交通部)

警察本部から「放置違反金関係事務で住民基本台帳ネットワークシステムを利用することによって、所在不明者等に係る照会事務の合理化・効率化及び放置違反金の徴収対策の強化を図る。」旨の報告があった。

【その他の報告事項】

警察本部から「本日、庁議があり、2月県議会に提出予定の予算案の審議が行われる。」旨の報告があった。